

農林水産政策審議会 第6回企画部会 議事要旨

I 開催日時 令和5年9月6日(水) 14:00~16:00

II 場所 県庁2号館2階参与員室

III 出席者

1 委員

石原 淳平 (株)グリーン興産 代表取締役
岩城 紀子 Smile Circle(株) 代表取締役
齋藤 亜紀美 (株)池上農場 代表取締役
辻村 英之 京都大学大学院農学研究科 教授
中塚 雅也 神戸大学大学院農学研究科 教授
中山 晋吾 兵庫県農業経営士会 会長
長谷川尚史 京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授
藤原 建紀 京都大学 名誉教授
船越 照平 (一社)兵庫県食品産業協会 会長
三宅 康成 兵庫県立大学環境人間学部 教授

2 県

塩谷農林水産部次長

ほか県農林水産部、環境部職員

IV 議事次第

1 開会

2 議事

(1) 農林水産業を取り巻く情勢の変化を踏まえた展開方向及び答申素案について

「資料3」、「資料4」、「資料5」及び「資料6」により説明

(2) ひょうごみどり白書2023について

「資料7」により説明

[各委員から意見等は(別紙「主な意見」参照)]

3 閉会

主な意見

1 キャッチフレーズについて

- 委員 多様性や連携、ポスト・コロナやポスト・グローバリゼーションの未来志向、持続可能性等、答申の特徴を広く網羅したものであるため、元の案1がよい。
- 委員 兵庫県らしさを考えると、「多様性」・「五国」が入っている若手案①がよい。
- 委員 案1と若手の言葉をミックスしては。案1は網羅的であり、若手の意見では「リアル」という文言が、実現の可能性があるビジョンを持つんだという意味が伝わってよいと思う。案1と若手案3のミックスはどうか。
- 委員 兵庫県なので、他の県にはない「五国」というフレーズは入れるべき。案2、3はどこの県でもいえること。若手案①に「持続可能」を足せばどうか。
- 委員 会長の「若手の意見を聞くように」とのご意見は、「多様な連携」に若者も入ってもらいたいとの意味だと考える。案1に「新時代」・「リアルに」・「new hyogo」等の若い言葉を入れるのがよい。
- 委員 キャッチフレーズの目的を考えると、ビジョン2030の実現に向けて何に力を入れるかを端的に表すフレーズを入れること、兵庫らしさを表現できることが重要ではないか。
- 委員 若者のフレーズを入れるとよい。「新時代」、「リアル」が良いのでは。兵庫ならではの「五国」も良い。時代の変化についていくという意味でも、「環境の変化」という文言はあってよいのでは。林業にも時代の変化に強くないといけない。
- 委員 「持続可能性」が最も重要ではないか。若手案①や③はよいのでは。この2つをミックスして、主題・副題という形でもよいのでは。多様性で紡ぐ五国の恵み～持続可能な農林水産をスクラムで取り組み～。
- 委員 若手案①がよい。
- 委員 以下の2案はどうか。「五国の恵 リアルな未来を創る農林水産（多様性、連携、環境 スクラムで取り組む ひょうご）」、「新時代をリアルに！五国の未来を多様性、連携、環境をスクラムで取り組むひょうご」
- 委員 元の案1は農林水産が未来を創るのか、未来に結果として持続可能な農林水産が創られるのか。
- 事務局 どちらともとれる。農林水産は幅が広いので、農林水産が地域の未来をリードしていくという思いはある。
- 委員 こういったキャッチフレーズは行政関係者が最も使う機会が多いため、どう考えたか説明でき、やる気が出る内容であることも大事。「新しい時代をリードする農林水産」などもよい。

→頂いた意見を組み合わせて事務局で案を作成し、部会長と協議して総会に提出することです承。

2 施策展開方向・答申案・みどり白書について

委員 「展開方向」の中で有機農業の面積拡大のための検討会の設置が謳われているが、それは答申案にどのように反映しているのか。

事務局 説明→了承

委員 資料4 A 3は最終的にどういう扱いとなるのか。

事務局 答申はビジョン策定後の情勢変化への対応を記載したものとなるので、従来から実施している施策は基本的に掲載しないが、A 3を答申の参考資料とすることで補完したい。

委員 全体的には、これまで出た幅広い意見を網羅しており、問題ないと考える。1点、資料7で林業木材産業産出額がR 3は下がっているが、全国的には30%程度伸びている年である。他県にシェアを取られている状況なのか。

事務局 林業産出額は農水省のR 3データ、木材産業産出額は経済産業省のR 2データ（コロナで建設等が止まった時期）を活用しているため、合計が減少となっている。

委員 誤解を生まないように注釈が必要ではないか。

事務局 事務局内で表現を調整する。

委員 助詞が足りない、文章がおかしい点等は今後修正を。

委員 前回構成がわかりにくいと指摘したが、説明書きが追加されたり、第4と第5の順番を入れ替えたことでわかりやすくなった。「はじめに」と「おわりに」はキャッチフレーズが決まったら、その内容にあわせて強調するなどの修正をしてほしい。「有機農業運動の発祥地」などの兵庫県の強みを1行でもよいので、入れてはどうか。

3 その他

委員 処理水の海洋放出が始まり、中国の輸出規制が強化され、ホタテが大きな影響を受けている。中国へ輸出や、中国で加工してアメリカに再輸出するものも含めて止まってしまったので、その行き先がなくなり、困っている。国も補正予算で対策を打つというが、今聞いている対策内容は在庫の冷凍保管用倉庫代への支援。いつまでも冷凍で置いておけるものでもないため、効果的かはわからない。中国に出している価格では高すぎて国内では売れないので、漁業者も取り分を見直す等が必要かもしれない。生産者から流通業者まで、どうしたらよいかわからない状態になっている。

委員 農林水産の領域が広がってきている。次期ビジョン等では食や農村生活にももっと記載を広げて行ってほしい。